

運試しの宝拾い

只見スキー場「お正月歓迎イベント」開催



▲引換券の入ったカプセルを探す子どもたち

株式会社社会津ただみ振興公社が運営する只見スキー場では、1月1日と2日にお正月歓迎イベントが開催され、来場者はおしるこの振る舞いやソリのりを楽しみました。

毎年恒例の雪中宝拾いは1日に行われ、約70人が参加し、雪を漕ぎながら雪中に隠されているお宝（引換券）を探しました。

雪中宝拾い参加者は「無事にお宝が見つかってよかったです。探している間は楽しくて寒くなかったです」と話しました。

地元を学び直すきっかけに

「只見おもしろ学検定」実施

「只見おもしろ学検定」が、12月13日から19日の間で、町内各小中学校と朝日振興センター（一般の方対象）で開かれ、初級・中級・上級合わせて計175人が受験しました。

問題は、初中級は「只見おもしろ学ガイドブック」から、上級は町史からも出題されます。

只見おもしろ学検定は、地域の魅力の発見や地域への愛着・誇りの再認識につなげることを目的に実施されています。来年度も実施予定がありますので、興味がある方はぜひ受験してください。



▲小中学校では、検定が地域を学ぶきっかけづくりにもなっています

令和4年度「地域探究プログラム」

堀金康太さん 東北ブロック代表に選出



▲東北ステージ代表に選ばれた堀金さん

堀金康太さん（南会津高校1年）が、令和4年度全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」（以下、地域探究プログラム）の東北ステージ代表に選出され、全国ステージに出場します。

堀金康太さんは「只見町の厄介者を地域活性で活かすには」のタイトルで、地域の生態系を脅かすブラックバスを、地元資源と組み合わせ、地域活性化に活かす方法を研究し、町文化祭や東北ステージで発表しました。

地域探究プログラムは、自ら課題を発見し解決する力を育成する「総合的な探究の時間」をサポートし、新たな価値を創造する人材育成を目指しています。

全国ステージは、2月11日、12日に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催します。



只見町の植物から 只見町ブナセンター-企画展 文化を学ぶ 「自然素材を活かす技」開催中

只見町ブナセンター企画展「自然素材を活かす技～木地、編み組、草木染めと伝承製品の魅力～」が、ただみ・ブナと川のミュージアムで、3月27日まで開催中です。

この企画展では、只見町ならではの自然を活用した暮らしの魅力を伝え、ユネスコエコパークの「持続可能な自然資源の利活用」に対する理解を深めてもらうことを目的としており、只見町の多様な植物の解説や、それらの植物を生活の中でどのように生かしてきたのかを紹介しています。



例えば、只見町の木でもあるブナは、昔は生活の身近にあり、除雪道具（コウシキ）や民家の建材として利用されました。編み組細工にはマタビなどの多様な植物が材料とされ、ヒロロなどは採集の解禁日を決めて、資源を枯渇させないルールの中で利用されました。このように只見町では自然と共生する知恵が古くから文化として根ざしていたことに気づかされます。

また展示は、パネルによる解説の他に、資料として実物の植物が展示されており、より植物に対する理解を深めることができます。



他にも自然素材を生かして作られた只見町のブランド品『「自然首都・只見」伝承製品』も展示されています。

「自然首都・只見」伝承製品は、只見町の自然素材に、昔ながらの知恵や技術を活用し作られ、只見町に住む人々が自然と共に生きてきたことを体現した地域ブランド製品です。

生活の中で使用するバッグや木工品、はちみつやあめなどの食品まで、昔から自然を多岐に生かして生活してきたことが分かるものになっています。



町内在住の高校生までは、入館料が無料です。春休みや自宅学習期間などを活用して只見町の多様な自然や生き物を学んでみませんか。

新たな展示も増えました!

ブナセンターの常設展示に、ヤマネやフクロウの骨格標本が仲間入りしました。通常は見えない部分を見ることができ、生き物の体のつくりを知ることができます。あわせてご覧ください。

お問合せ先 只見町ブナセンター
TEL 0241-72-8355
住所 只見町大字只見字町下2590



只見町の
冬の暮らしを知る

ただみ・モノとくらしのミュージアム テーマ展「ただみ・冬の暮らし」開催

豪雪地帯として知られる只見町の冬の暮らしにスポットを当てたテーマ展「ただみ・冬の暮らし」が、ただみ・モノとくらしのミュージアムで開催中です。

展示は、「暖をとる」、「身にまとう」、「雪で遊ぶ・家で遊ぶ」、「雪を掘る」の4つの章に分けられ、只見町の冬の暮らしの中で生まれた工夫や道具を時代の流れとともに展示し、そのうつりかわりを見ながら学ぶことができます。



第1章「暖をとる」では、部屋を暖める道具として使用されていた「ヒバチ(火鉢)」の展示から始まります。鉄製のものや、絵が描かれた陶器のものなど、ヒバチだけでもさまざまな種類があることがわかります。

また「ストーブ」の展示では、薪を燃料にして暖をとる薪ストーブから、時代の変遷とともに、灯油を燃料とする石油ストーブになり、空気をファンで送り出す石油ファンヒーターが登場します。

この章では、他にも、「コタツ」や「アンカ」なども展示されており、現在の形になるまでの変遷が見て分かります。

第3章「雪で遊ぶ・家で遊ぶ」では、冬を楽しむための工夫を見ることができます。スキー板やソリは、素材と形状が変わっていく様子が見られます。また室内の遊びとして、「百人一首」などのカルタや「パッタ」(メンコ)、「ザック」(お手玉)などが展示されています。

他にも、木にトタンを打ち付けて作ったスケート靴も展示されています。工夫された冬の遊びの多様さに驚きと発見があります。

第4章「雪を掘る」では、大型除雪機(右写真)を展示ホールで展示しています。



本展示は、5月28日まで開催しています。いろいろの間には、季節行事の展示として、「七段飾りの雛人形」も展示しています。入館料は無料ですので、ご家族そろって足を運んでみてはいかがでしょうか。

お問合せ先 ただみ・モノとくらしのミュージアム

TEL 0241-86-2175

住所 只見町大字大倉字窪田30